

和歌山

地域面3ページ

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5
和歌山第一生命ビル4階
TEL 073(431)1411
FAX 073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】

橋本	0736(32)0063	新宮	0735(28)1751
海南	073(482)0675	御坊	0738(22)2511
湯浅	0737(62)2870	田辺	0739(26)1026

【広告問い合わせ】 073(423)9291
【購読問い合わせ】 0120-468012

マーク・矢崎 1

「黒潮の基地」だった湯浅

絵と文・熱田親喜 題字・熱田秦華

熊野古道

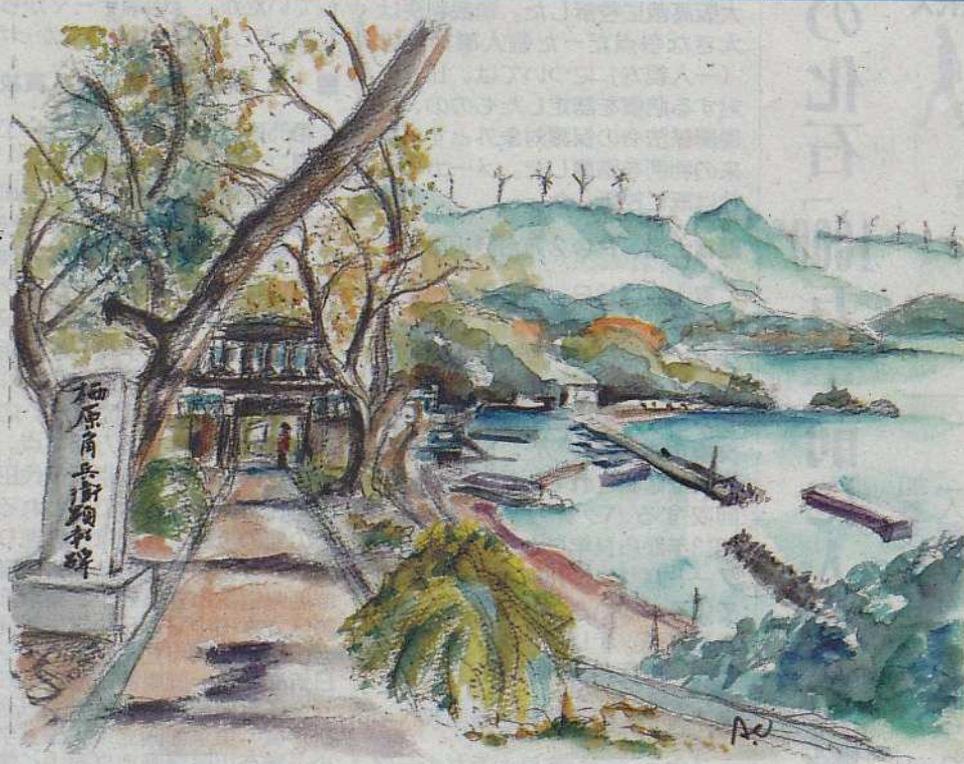
みたらくま記

31

戸時代、イワシ漁場を求めて千葉・房総半島への出稼ぎ漁業の起点となったのが湯浅だったという。

郷土史に詳しい湯浅に漁業の町・湯浅を案るせる白方山・勝榮寺町教育長、垣内貞さん 内していただいた。江へ。本堂には見上げる

まず、湯浅湾を見下



施無畏寺から見た栖原湾(湯浅町栖原)

ほどの大きさの地蔵尊、薬師如来、阿弥陀如来、釈迦像が鎮座しており、歴史が感じられた。これらは平安時代から鎌倉初期の制作で、湯浅氏の菩提寺として繁栄したという。それにしても本堂が貴素なので、その訳を尋ねると、豊臣秀吉が花見の宴を豪華にするため、当時最も立派な本堂が湯浅にあると聞き、旧来の仏像と本堂

無畏寺のお墓が山裾まで伸びていた。栖原の漁業のルーツは、戦国時代にこゝまで生き延びてきた武士たちが、漁業に専念。海賊に遭遇したが、これを制圧して紀伊水道の制海権を獲得し、黒潮に乗って房総海岸にまで達した。この海域で大量のイワシを漁獲し、干鰯として大阪に運搬。菜種、綿花など増産のため肥料として

栖原屋太郎兵衛家の墓もあった。九州から河内垣内村経由で紀州栖原に一族郎党を連れ移住し、菊池から垣内と改姓する。須原屋茂兵衛、北村(栖原)角兵衛と共に漁場開拓を行った後、栖原屋は干鰯商から江戸一の砂糖商に成長。その主人が関東上総国 御宿 岩田 岩船浦 等と刻まれており、黒潮による房州と紀州との深い

最後に頭国神社鳥居前の「真延元歳(1748年)九月吉日 在

を京都の醍醐寺に運ばせたという。権力者らしい逸話である。

次に栖原湾を望む白上山の中腹に立つ。鎌倉時代、この山中でひとすらすら修行した明恵上人の人の人柄や業績がしのばれた。前方の栖原湾に浮かぶ刈藻島、鷹島から明恵上人のインド・釈尊への思いが伝わってきた。足元のスロープには、ミカン畑と、明恵上人創建の施

て重宝された。

施無畏寺の墓地の中に、関東の漁場を開拓して江戸一の書籍業を営み、「解体新書」な倉時代、この山中でひとすらすら修行した明恵上人の人の人柄や業績がしのばれた。前方の栖原湾に浮かぶ刈藻島、鷹島から明恵上人のインド・釈尊への思いが伝わってきた。足元のスロープには、ミカン畑と、明恵上人創建の施

船来航時は自費で大砲4門を海岸に設置した大人物だ。その末裔は現在、学者として活躍中とのこと。

施無畏寺の門前には栖原角兵衛の顕彰碑もある。現在の伊丹市出ら火の「稲むらの火」で有名な浜口梧陵に通じるものがある」と語られた。

湯浅を去るにあたり、垣内さんは「江戸時代、江戸方面で活躍された人々は天災や飢饉に際し、自分の築いた財産を惜しみなく難民救済に当った。これは隣の広川町の「稲むらの火」で有名な浜口梧陵に通じるものがある」と語られた。

施無畏寺に漁民眠れる春となり 秦華 (次回は3月10日掲載)

イワシで繁栄 房総にも

を京都の醍醐寺に運ばせたという。権力者らしい逸話である。

次に栖原湾を望む白上山の中腹に立つ。鎌倉時代、この山中でひとすらすら修行した明恵上人の人の人柄や業績がしのばれた。前方の栖原湾に浮かぶ刈藻島、鷹島から明恵上人のインド・釈尊への思いが伝わってきた。足元のスロープには、ミカン畑と、明恵上人創建の施

船来航時は自費で大砲4門を海岸に設置した大人物だ。その末裔は現在、学者として活躍中とのこと。

施無畏寺の門前には栖原角兵衛の顕彰碑もある。現在の伊丹市出ら火の「稲むらの火」で有名な浜口梧陵に通じるものがある」と語られた。

湯浅を去るにあたり、垣内さんは「江戸時代、江戸方面で活躍された人々は天災や飢饉に際し、自分の築いた財産を惜しみなく難民救済に当った。これは隣の広川町の「稲むらの火」で有名な浜口梧陵に通じるものがある」と語られた。

施無畏寺に漁民眠れる春となり 秦華 (次回は3月10日掲載)